

P1-3 脊椎椎体炎に対する高気圧酸素治療の応用

土居 浩 大橋元一郎 望月由武人 朝本俊司

東京都保健医療公社荏原病院脳神経外科

脊椎椎体炎は比較的稀な疾患であるが、進行することにより脊髄症状を呈し予後不良な転機を来すことは稀ではない。今回当院で経験した脊椎椎体炎に関して高気圧酸素治療 (HBO) を施行および未施行の症例について比較対象を行ったので報告する。

対象は1996年から2007年6月までに当院で経験した脊椎椎体・椎間板炎34例に検討を加えた。年齢は26～85歳で男性18例女性16例である。HBOを発症当初から施行したのは13例、HBO未施行は21例であった。手術症例はHBO未施行例では10/21 (47.6%)、HBO施行例では2/13 (15.3%)と有意にHBO施行例のほうが手術症例は少なかった。

脊髄症状 (対麻痺などの神経症状) の予後に関しての検討も行った。予後不良症例はHBO未施行例では5/21 (23.8%)で神経症状の後遺症や1例で死亡例も経験している。一方HBO施行例で2/13 (15.3%)で神経症状の後遺症を認めた。また脊髄症状の予後に関してはHBO施行例では発症時から症状の悪化は認めなかった。また最近では脊髄手術に比較的よく用いられるinstrumentationの感染に関してもHBOを施行し予後良好な症例も3例経験し、脊椎感染に関してHBOはきわめて有効と考え報告する。